

第3回エネルギー政策ラウンドテーブル

*Japan's Energy Policy:
Challenges faced in Globally Complex World*

2012年7月12日



谷口武俊

問題認識(短期的)

- 電力需給綱渡りの解消・・・決定打、切り札はなく、不確実な現実(綱渡り常態化の可能性大)
 - 火力発電(LNG、石炭)の利活用・・・計画外停止の可能性あり
 - 省エネ・節電・・・昨夏の経験とその後の努力で東日本は一定程度は定着、西日本は未体験ゆえ不確実性あり。追加ポテンシャルの大きさは、省エネバリア(情報不足、隠れた費用など)を取り除く施策実施に依存、またネガワット取引など節電の市場化は中長期的対策であるため、期待できない。
 - 原子力発電所の再稼働・・・不確実。
 - 広域融通・・・限界あり

- 重要インフラの自然災害に対する脆弱性の再吟味・・・次なるシステミックリスクへの備えが必要

- 政権が交代したらエネルギー政策は変化するか
 - パラダイムの変革か、311までのパラダイムの微修正か

問題認識(中長期的)

- 日本のエネルギー・資源・燃料の安定確保戦略は、資源ナショナリズム台頭による争奪戦のなか、官民ともネットワーク・連結拡大の方向(高度連結状態を志向)だが、ポジティブ・フィードバックが組み合わさると、行き着く先は(否応なく)過剰連結状態に置かれるのではないか。それも各連結点はブラックボックス(詳細なインテリジェンスを持っていない)。

高度連結状態:すべてがうまくいっているかに見える状態。結合の度合いが高まると物事はうまく進み、企業や経済体制等は変化を促していく。

過剰連結状態:社会制度が急激に変わりすぎて環境が変化についていけない状態。また、その逆の状態。

- 日本は、社会構造・産業構造・行財政改革・政治改革があまり進んでいないなか、過剰連結状態に入り、経済的感染が起きたら、甚大な被害を受ける可能性が高いのではないか。

生物学的感染:はっきりと診断可能。ある程度備えはできるが、抵抗力の個人差の問題である。
経済的感染:保菌者は感染拡大により利益を得られる場合が多い。背後には常に思考感染が存在し、ポジティブあるいはネガティブ・フィードバックとして作用する。

思考感染:心理的要素が大きくかわり多様である。インターネットが深く関わっている。

何が問題なのか、どう対処すべきか

- あらゆることが強く結びついている状態が問題なのか、変化の速度が高まっていることが問題なのか、対処が遅い、あるいは不十分であることが問題なのか。
- どう対処するか
 - 過剰連結状態が生み出すリスクを理解すること
 - 過剰連結状態から高度連結状態へ戻すこと(連結性を管理する)
 - ◆ ポジティブ・フィードバックの水準を下げ、それが引き起こす事象を減らし、思考感染を緩和し、予期せぬ結果を全体的に減らす
 - ◆ より頑健なシステムを設計し、危機を起きにくくする
 - ✓ 応急処置で解決を図ろうとしないこと、図れると考えること
 - ✓ 安全域を十分にとること(より保守的なアプローチ)
 - ✓ 不必要な結びつきをつくらないこと
 - ✓ 本質的に危険なシステムをつくらないこと(too big to fail状態にしない)
 - ◆ 既に存在する連結の強さを自覚し、既存の制度を改革し、より効率的かつ適応度の高いものにする
 - 連結性を管理するには、外界にひけを取らない力を有することが必要

総合エネルギー企業
資源探鉱・開発技術力を有
する企業